

「令和5年度富山市中学校3年生学力調査」
結果の概要

令和6年1月29日(月)

富山市教育委員会

「令和5年度富山市中学校3年生学力調査」結果の概要について

I 本調査の目的

- 各中学校が、3学年生徒の2学期終了時の学力定着状況について、実証データに基づいて把握し、今後の学習指導の改善・充実に生かす。
- 生徒一人一人が、自分の努力すべき課題に向かって意欲的に学習に取り組むよう進路指導資料として活用する。

II 実施状況

- 実施期日 令和5年11月30日(木)、12月1日(金)
- 調査教科 国語、社会、数学、理科、英語
- 実施学校数・生徒数

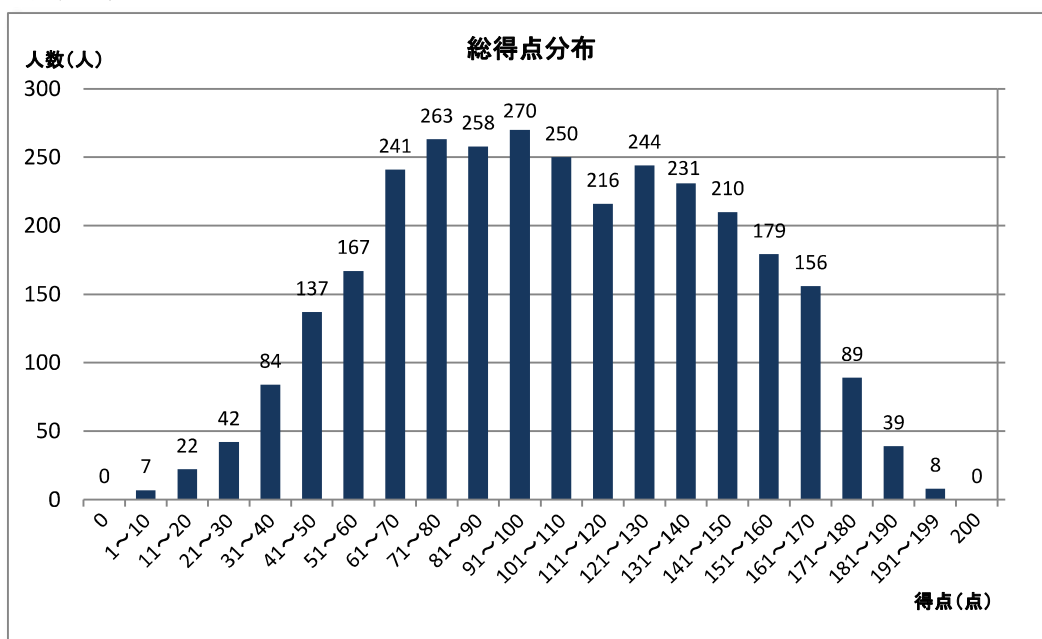
実施学校数	生徒数	
26校1分校 附属中を含む	在籍数	3,509人
	受検者数	3,113人 (5教科全てを受検した生徒数)

III 結果の概況

1 教科別全生徒平均点

国語	社会	数学	理科	英語	総得点
26.6点	23.6点	16.0点	19.6点	18.2点	104.5点

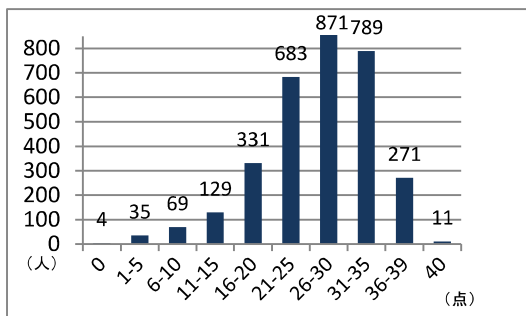
2 総得点分布グラフ



3 教科別得点分布グラフ

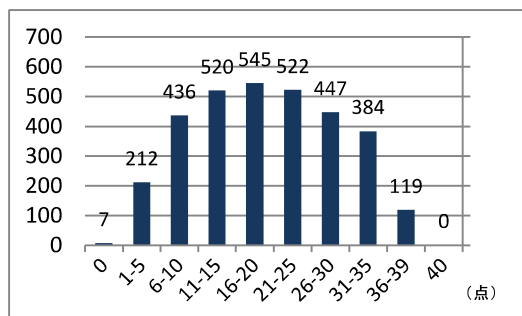
国語

平均点 26.6点 受検者数 3,193人



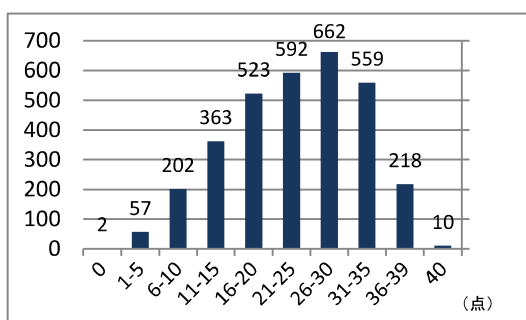
理科

平均点 19.6点 受検者数 3,193人



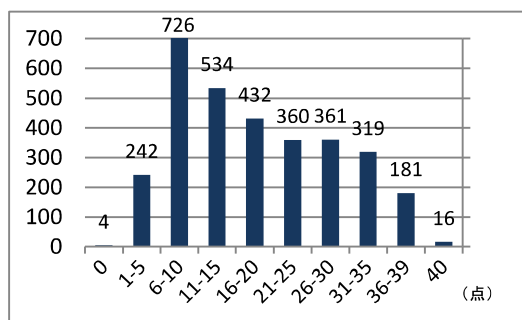
社会

平均点 23.6点 受検者数 3,188人



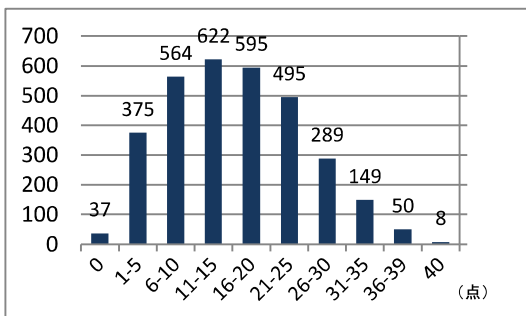
英語

平均点 18.2点 受検者数 3,175人



数学

平均点 16.0点 受検者数 3,184人



IV 結果の概要

1 抽出調査について

26中学校の各学級8人(男子4名、女子4名)をそれぞれ出席番号の早い順に1番から4番まで抽出生徒の記録としてデータを取る。欠席の場合は、出席番号を繰り上げて、各学級から8人の抽出を行うものとした。

2 抽出生徒数

学校数	学級数	抽出生徒数
26校	100学級	799人

(附属中含む)

V 各教科の概要

1 教科の考察

(1) 教科全体から見た結果

「得点分布表」「観点別解答率表」等から読み取れる教科全体の概要について、その特徴を表記する。

(2) 正答率の高い問題について

「設問別正答率表・グラフ」から読み取れる、正答率の高い問題について、考察を行う。

(3) 読解力と正答率の関連について

「設問別正答率表・グラフ」から読み取れる、正答率と読解力との関連について、実際の問題の一部を提示しながら考察を行う。

2 今後の授業に向けて

1の(3)で考察した読解力の視点も含め、今後の指導の工夫について表記する。

VI 読解力の視点からの考察

1 読解力

中央教育審議会答申において、PISA2018の結果から、子どもにとって言葉を取り巻く環境が変化する中で読解力に関して改善すべき課題が明らかになったと示されている。なお、「PISA型読解力」とは、一般的な文字や文章といった「連続型テキスト」の理解だけでなく、グラフや図表、地図など様々な資料（「非連続型テキスト」）を理解し、利用し、評価し、熟考する力であるとされている。

2 読解力の視点からみえる課題

理科では、全ての実験結果を総合的にとらえ、4つの物質において酸素と結びつきやすい順番を導き出す設問の正答率が28.8%と低い。また、英語科では、対話文全体の内容をとらえながら、問いに対する自分の考えをもち、その理由を英文で書く問題において、正答率が31.8%と低く、無答率が26.5%と高い。今年度の全国学力学習状況調査の中3英語科においても、「社会的な話題について、短い文章の要点をとらえて、それに対する自分の考えとその理由を書く問題」の平均正答率が21.9%と低く、無答率も27.9%と最も高かった。物事全体の内容をとらえたいうえで自分の考えを明らかにすることや、その考えの道筋や理由を適切に表現することに課題がある。

国語科では、文学的な文章を読み、文脈をとらえて自分が考えたことを記述する問題において正答率が23.9%と低く、無答率が25.2%と最も高い。また、社会科では、時代背景や文化の特色を表した説明文から情報を的確にとらえ、空欄箇所が示す内容を適切な言葉で答える問題の正答率は48.7%であった。文章や資料から読み取ることができる内容を関連づけて自分の考えを明確にしていくことに課題がみられる。

3 読解力の向上に向けた今後の指導

○ 「まとめ、表現する」場の充実

授業において、「まとめ、表現する」場の充実を図る。生徒自身がその学習において、「何が分かったのか」をまとめたり、「相手に何を伝えたいのか」「何を表したいのか」を考え、表現したりする場を保障する。その際、教科や学習内容にあわせて、生徒一人一人の技能に合ったツール（紙面、一人1台端末、ホワイトボード等）や方法（文章、図絵、プレゼンテーション等）を生徒が選択できるように工夫していきたい。併せて、「どのような事象（資料）からそれが分かるようになったのか」「どうしてそのことを伝えたいのか、表したいのか」など、自分の考えが変化したことや理由等を明らかにしながら、まとめや表現ができるよう、生徒と対話をしながら支援することが重要である。

○ 「仲間と共に考え合う」場の充実

生徒一人一人が自分の学びを充実させるとともに、仲間と互いの考えを伝え合ったり、共有したりする場を効果的に取り入れることで、多角的に読解する力を育てていきたい。例えば、一人1台端末を活用し、生徒が即時的に考えを共有できるようにし、多様な考えに触れたり、自分の考えとの相違に気づいたりできるようにする。その中で、さらに詳しく知りたいことや確かめたいことを生徒同士が実際に聞き合ったり、付箋機能で添付して伝え合ったりすることも考えられる。併せて、生徒の身の回りにある心動くような事実や本物を取り上げ、生徒が感じたことを素直に言葉に表したり、答えがないことについてじっくりと考えたりできる場を適切にバランスよく設けることも大切であると考えられる。このように生徒同士が対話する場について、授業のみならず様々な教育活動の中で計画的かつ継続的に積み重ねることで、仲間と共に考えを広げたり深めたりし合おうとする姿勢につながるものと考えられる。

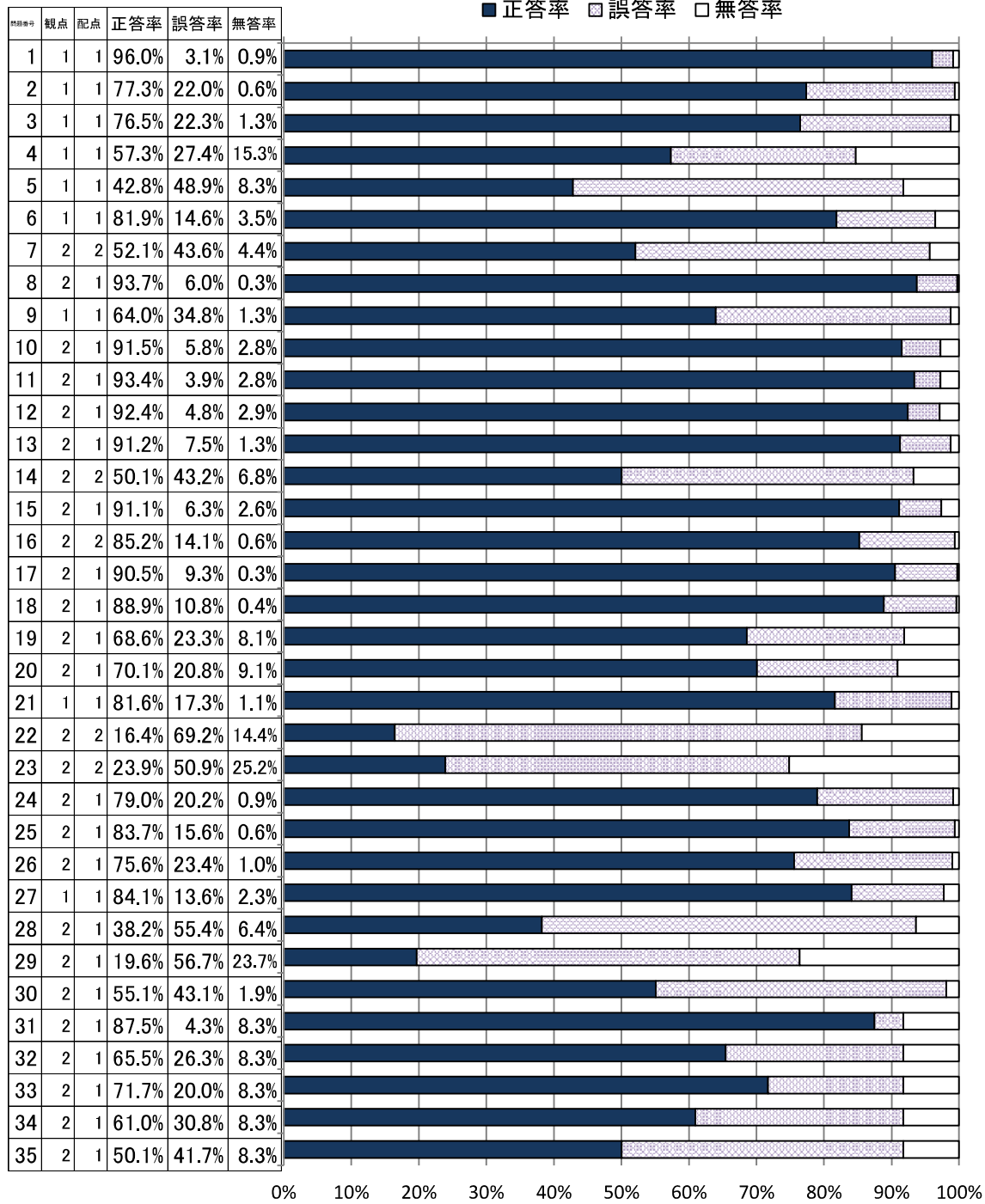
VII 中1学力調査との比較からの成果と課題

入学時の中1学力調査の結果と比べ、例年同様、全体的に正答率は低い。総得点の平均正答率は中1で72.98%、中3で52.25%であった。その中で、国語科「知識・技能」の観点において、誤答率が24.2%から23.6%に、社会科の「知識・技能」の観点において、無答率が9.7%から4.0%として、向上しており、漢字の読み方や基本的用語・事項を理解する力がわずかながら高まっていると考えられる。引き続き、言語環境を整えることに努め、各教科における言語活動を充実させながら、定着を図っていきたい。

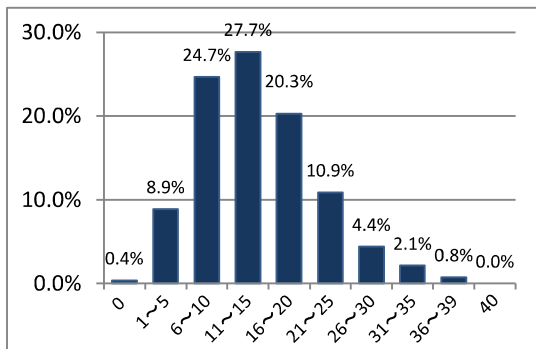
VIII 抽出生徒から分析する各教科の概要

国語 抽出生徒数 799人 抽出平均 26.7点

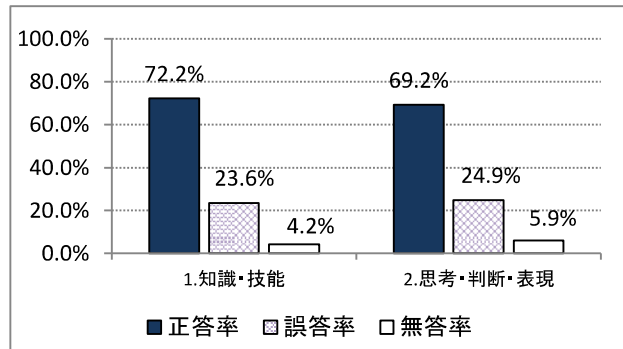
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 国語科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は26.7点であり、昨年度(19.1点)から7.6点高くなっている。観点別の正答率は「知識・技能(72.2%)」「思考・判断・表現(69.2%)」と、大きな差は見られなかった。内容別に正答率を見ると、漢字の読み書き(71.9%)、説明的な文章の読解(80.4%)、文学的な文章の読解(66.9%)、古文の読解(54.5%)、作文(67.1%)となっており、古文の読解に課題が見られる。

(2) 正答率の高い問題について

「知識・技能」を問う問題では、「率いる」の読み方を答える問題の正答率が高い(通し番号1)。古文に関する問題では、「願ひたまひける」の現代仮名遣いの読み方を答える問題の正答率が高く(通し番号27)、令和5年度全国学力・学習状況調査の同様の問題においても全国平均を上回る正答率だったことから、仮名遣いに関する知識が定着していることがうかがえる。

「思考・判断・表現」を問う問題では、選択式や短答式の問題において正答率が高い。本文中の空欄に当てはまる接続詞を選ぶ問題では、昨年度(79.9%)に引き続き、93.7%と高い正答率(通し番号8)であった。説明的な文章を取り扱う際、論理の展開をとらえる指導が継続的に行われており、一定の効果を上げていることが分かる。

(3) 読解力と正答率の関連について

「C 読むこと」(通し番号7~30、知識・技能を除く)における正答率を問題形式毎に分析すると、選択式82.5%、短答式77.9%、記述式32.4%であり、読み取った内容を指示に従って記述することに課題がある。例えば、文学的な文章の読解では、文章には直接的な表現で描かれていない内容を文脈から捉える問題において、選択式の問題(通し番号18)の正答率は88.9%に対し、記述式の問題(通し番号23)は、23.9%と低く、無答率が25.2%と最も高い。記述式の問題でも、本文中の言葉を用いて解答する問題(通し番号7)は、無答率が4.4%と低いことから、適切な言葉を自ら考えて記述する問題に苦手意識があることがうかがえる。読解力を伸ばすには、読み取った内容を自分の言葉で説明するなど、文章に対して能動的に働きかける機会を設けたい。

(通し番号18)

②あのバス停のとこ……だと思っんですけど とありますが、「……」の部分から夏代のどのような様子が読み取れますか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

(通し番号23)

⑥そう思っただけでなくとも とありますが、具体的にはどういうことですか。次の文の()に合うように、三十字以内で書きなさい。

老人が()わけではなくとも。

2 今後の授業に向けて

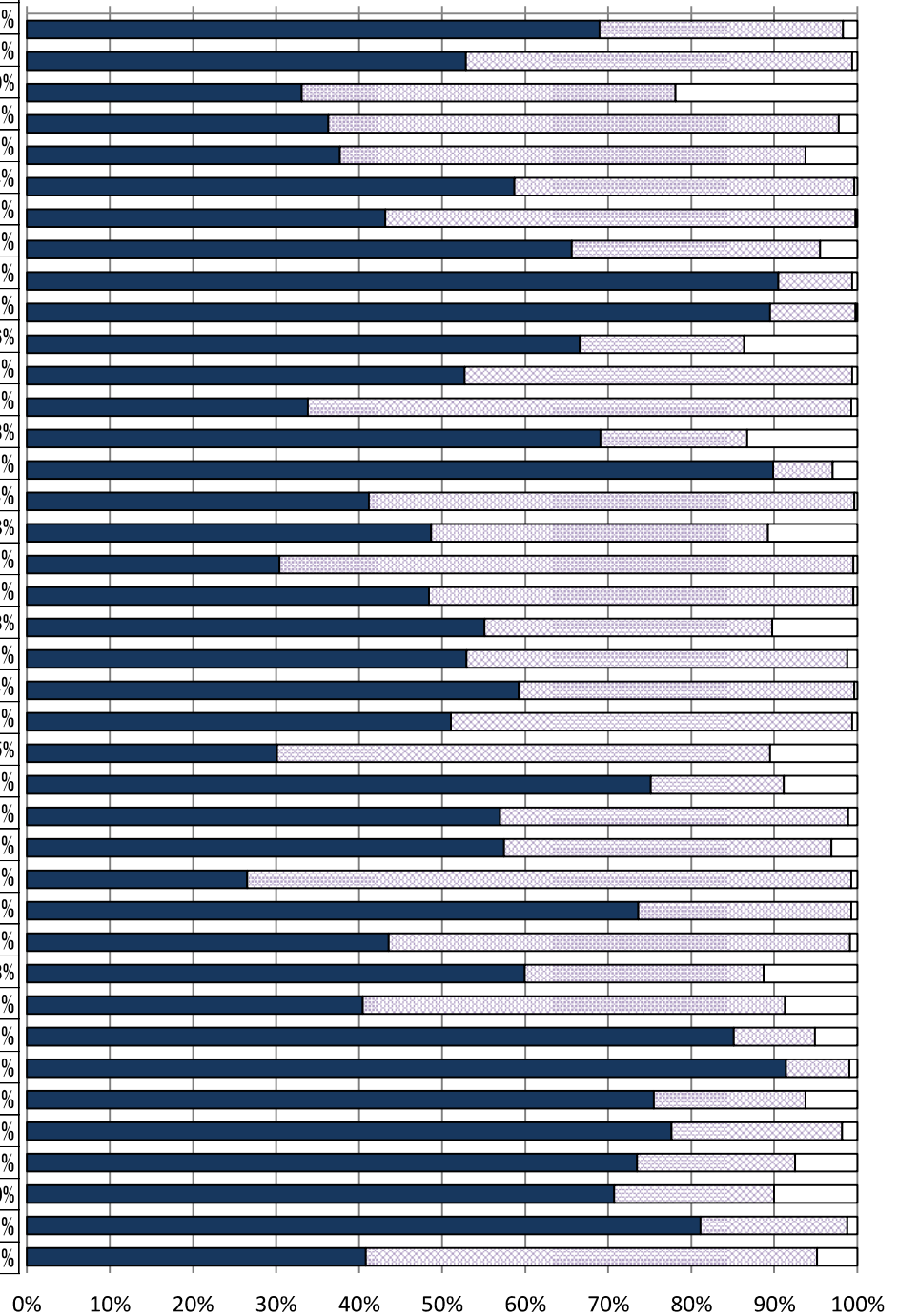
(1) 「書くこと」の指導に限らず、「読むこと」の指導においても、読み取った内容や自分の考えを言語で表現する場面を積極的に取り入れたい。その際、一人1台端末を用いることで、即時的に考えを共有したり、他者参照機能を活用することで、友達と自分の考えの違いに気づいたりしながら、表現の仕方や言語感覚をはぐくむことが容易となる。継続的に取り組むことで、書くことに対する抵抗が減るだけでなく、友達の考えを生かしながら、自らの考えを深めることが期待できる。

(2) 語彙の不足から、書くことに抵抗がある生徒は多い。まずは日々の授業の中で、言葉に敏感になる姿勢をはぐくみたい。例えば、どの領域の授業においても、「なぜここでは『つかむ』ではなく、『にぎる』と表現してあるのだろう」と言葉の違いについて考えるきっかけを大切にするなど、言葉に対する関心を高めるような機会を設けていく。

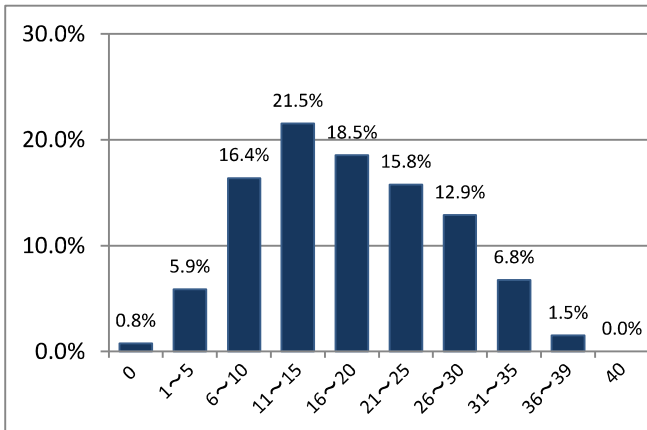
【設問別正答率表・グラフ】

■ 正答率 □ 誤答率 □ 無答率

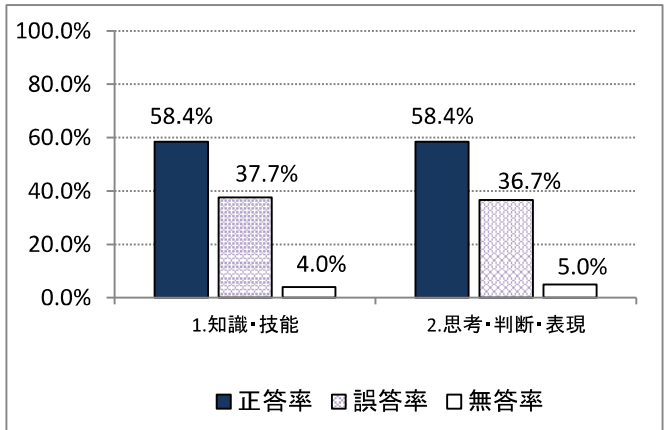
問題番号	観点	配点	正答率	誤答率	無答率
1	1	1	69.0%	29.3%	1.8%
2	2	1	52.8%	46.6%	0.6%
3	2	1	33.0%	45.1%	21.9%
4	2	1	36.3%	61.5%	2.3%
5	2	1	37.7%	56.1%	6.3%
6	2	1	58.7%	40.9%	0.4%
7	2	1	43.2%	56.6%	0.3%
8	1	1	65.6%	29.9%	4.5%
9	2	1	90.5%	8.9%	0.6%
10	2	1	89.5%	10.3%	0.3%
11	1	1	66.6%	19.8%	13.6%
12	2	1	52.7%	46.7%	0.6%
13	2	1	33.8%	65.5%	0.8%
14	2	1	69.1%	17.6%	13.3%
15	1	1	89.9%	7.1%	3.0%
16	1	1	41.2%	58.4%	0.4%
17	2	1	48.7%	40.6%	10.8%
18	1	1	30.4%	69.1%	0.5%
19	1	1	48.4%	51.1%	0.5%
20	2	1	55.1%	34.7%	10.3%
21	2	1	52.9%	45.8%	1.3%
22	1	1	59.2%	40.4%	0.4%
23	1	1	51.1%	48.3%	0.6%
24	1	1	30.2%	59.3%	10.5%
25	2	1	75.1%	16.0%	8.9%
26	1	1	56.9%	41.9%	1.1%
27	2	1	57.4%	39.4%	3.1%
28	1	1	26.5%	72.7%	0.8%
29	1	1	73.6%	25.7%	0.8%
30	1	1	43.6%	55.6%	0.9%
31	1	1	59.9%	28.8%	11.3%
32	1	1	40.4%	50.8%	8.8%
33	1	1	85.1%	9.8%	5.1%
34	2	1	91.4%	7.6%	1.0%
35	1	1	75.5%	18.3%	6.3%
36	2	1	77.6%	20.5%	1.9%
37	1	1	73.5%	19.0%	7.5%
38	2	1	70.7%	19.3%	10.0%
39	1	1	81.1%	17.6%	1.3%
40	2	1	40.8%	54.3%	4.9%



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 社会科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 23.3 点で、観点別の正答率は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」とともに 58.4% である。正答率が 40% を下回る問題が 7 問あり、その中で 4 問が地理的分野、3 問が歴史的分野の問題であった。また、無答率が 10% 以上の問題は 8 問で、昨年度の 12 問より減少したが、記述式の問題での無答が目立つ。

(2) 正答率の高い問題について

「知識・技能」では、基本的用語・事項を答える問題の正答率が高い。(通し番号 15、33、35、39)

「思考・判断・表現」では、資料が示す内容に適する事柄を選択肢内から選ぶ問題の正答率が高い。(通し番号 9、34)

(3) 読解力と正答率との関連について

時代背景や文化の特色を表した説明文から情報を的確に捉え、空欄箇所が示している内容を適切な言葉で表現する問題の正答率は 48.7% であった。平家物語は、琵琶法師により場面や心情に合わせて演奏されたことが文字を知らない人々にも広まり得た大きな要因であったことを、文の前後から読み取って考察し、表現する必要があった。時代背景を捉えた上で、文を丁寧に読み取り、キーワードを用いて表現する力に課題がある。(通し番号 17)

(通し番号 17)

次の文の X にあてはまる内容を答えなさい。

戦乱に関心を抱く人々の声に応え、武士の活躍と運命を描いた軍記物が生まれました。特に『平家物語』は琵琶法師によって語られ、X ができない人々もその世界に引き込まれました。琵琶等による弾き語りの芸能は、教育の普及により X ができる人が増えたあとの時代にも続きました。

2 今後の授業に向けて

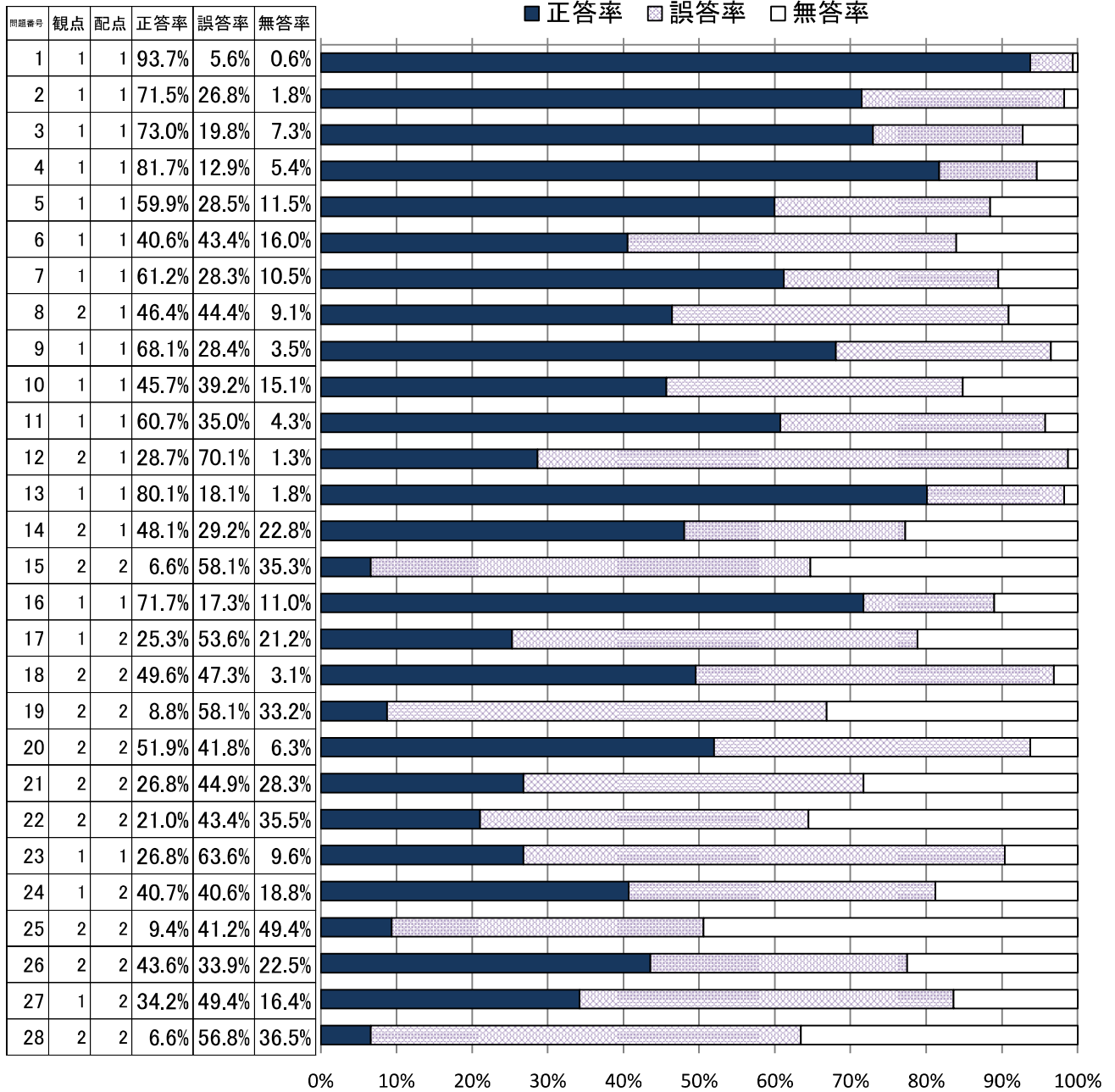
- (1) 説明を記述する問題は、全体的に正答率が 50% 前後と低く、無答率が 10% 以上である傾向が見られる。グラフや表等の資料を根拠として説明する力を育成するために、量、割合、変化等を視点として資料を読み取り、キーワードを使って社会的事象と関連づけながら短文で表したり、文の前後を丁寧に読み取り、キーワードを用いて表現したりする機会を今後も継続的に設けたい。さらに、授業でのまとめや振り返りをノートや端末上に記し、単元の最後にそれらを読み返して、学習内容を確認する場面を計画的に取り入れることも効果的である。
- (2) 歴史的分野における基本的用語・事項を答える問題、社会経済史、文化史、戦後史等を適切にとらえる問題の正答率が低いことに対しては、学習内容の深い理解と、知識の定着を図るため、「なぜ〇〇はそうしたのか」「〇〇はどのような影響を及ぼしたのか」など、背景、原因、結果、影響を問うような学習課題を設定し、古代から近現代までの複数の社会的事象のつながりを時期や推移等に着目して考察する。次に、その結果を表や年表にまとめて比較するなどして類似や差異、特色を明確にしたり、事象間の関連を考えたりする活動を取り入れることで理解が深まり、知識の定着が図られる。
- (3) 地理的分野における基本的用語・事項を答える問題、資料を正確に読み取る問題、複数の事象から考察する問題の正答率が低いことに対しては、日ごろから資料を読み取り、考察する過程で実生活との関連を見いだすとともに、地域ごとの農産物の出荷時期調整が店頭での野菜の価格に見てとれることなど、既に習得した知識と新しく学んだことを結びつけて考察する場面を設定し、知識を活用する場面を設定していく。
- (4) 生徒が主体的に学ぶ授業を行うために、資料の提示内容や順序等を工夫するとともに、「既習の内容や経験と関連づけて考える課題」「答えが複数ある課題」「自分が導き出した考えと友達のを比べることで深まりが増す課題」等、生徒がじっくり考えたいくなるような学習課題の設定を心がけたい。

数 学

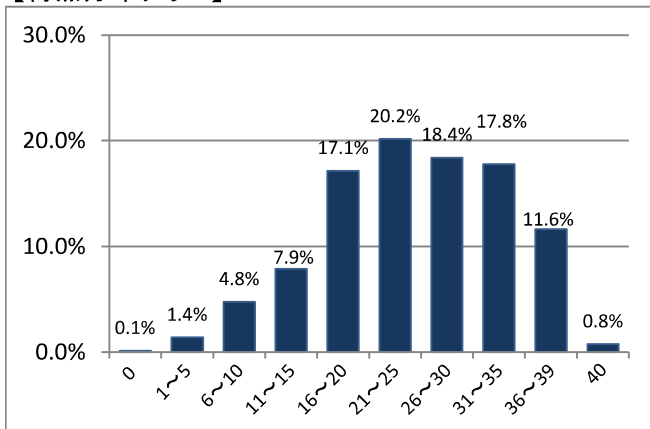
抽出生徒数 799人

抽出平均 16.1点

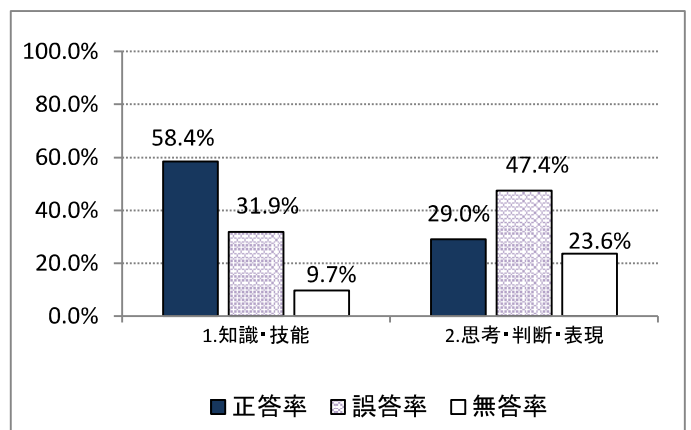
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 数学科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 16.1 点であった。観点別にみると、「知識・技能」の正答率が 58.4%であったのに対して、「思考・判断・表現」の正答率が 29.0%と低い。また、無答率が 10%以上の問題は 16 問あり、領域別に比較すると「図形」領域は 9 問中 6 問が該当している。

(2) 正答率の高い問題について

「数と式」領域の、正負の数の四則計算、連立方程式の計算をする問題、また、「データの活用」領域の、さいころの目の出方について起こりうる場合の全ての数を求める問題において正答率が 80%を越えている。(通し番号 1、4、13)

一方で、「思考・判断・表現」の観点では、規則性を見だし、文字式を利用して考察する問題(通し番号 20)の正答率が 51.9%であった。

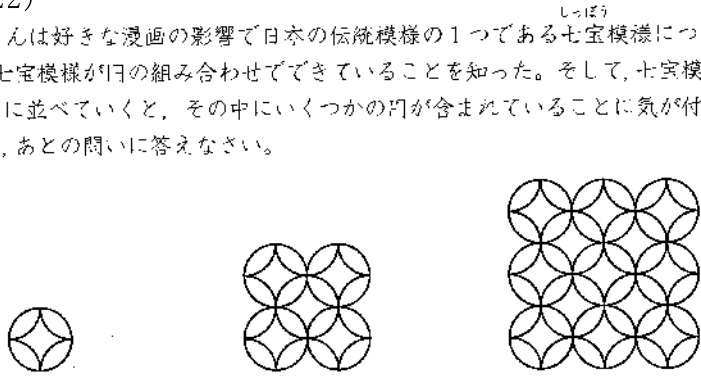
(3) 読解力と正答率の関連について

図形の組み合わせによってできる模様に含まれる円の個数の規則性を見だし、円が 545 個になる場合の順番を求める問題の正答率が 21.0%であった。

(通し番号 22) 無答率は 35.5%と高く、読解力を問う問題に対する苦手意識がみられる。生徒は自分で作図し、模様の順番と円の個数を表にまとめて解答しようとしたものの、数の変化の規則性に気づくことができない、文字式に表せないなどの理由により、正答とならなかったと推察される。


(通し番号 22)

(5) 坂本さんは好きな漫画の影響で日本の伝統模様の1つである七宝模様しっぽうについて興味をもち、七宝模様が円の組み合わせでできていることを知った。そして、七宝模様を下の図のように並べていくと、その中にいくつかの円が含まれていることに気が付いた。このとき、あとの問いに答えなさい。



1番目 2番目 3番目

{2} 図に含まれる円の個数が545個となるのは、何番目の図か答えなさい。



2 今後の授業に向けて

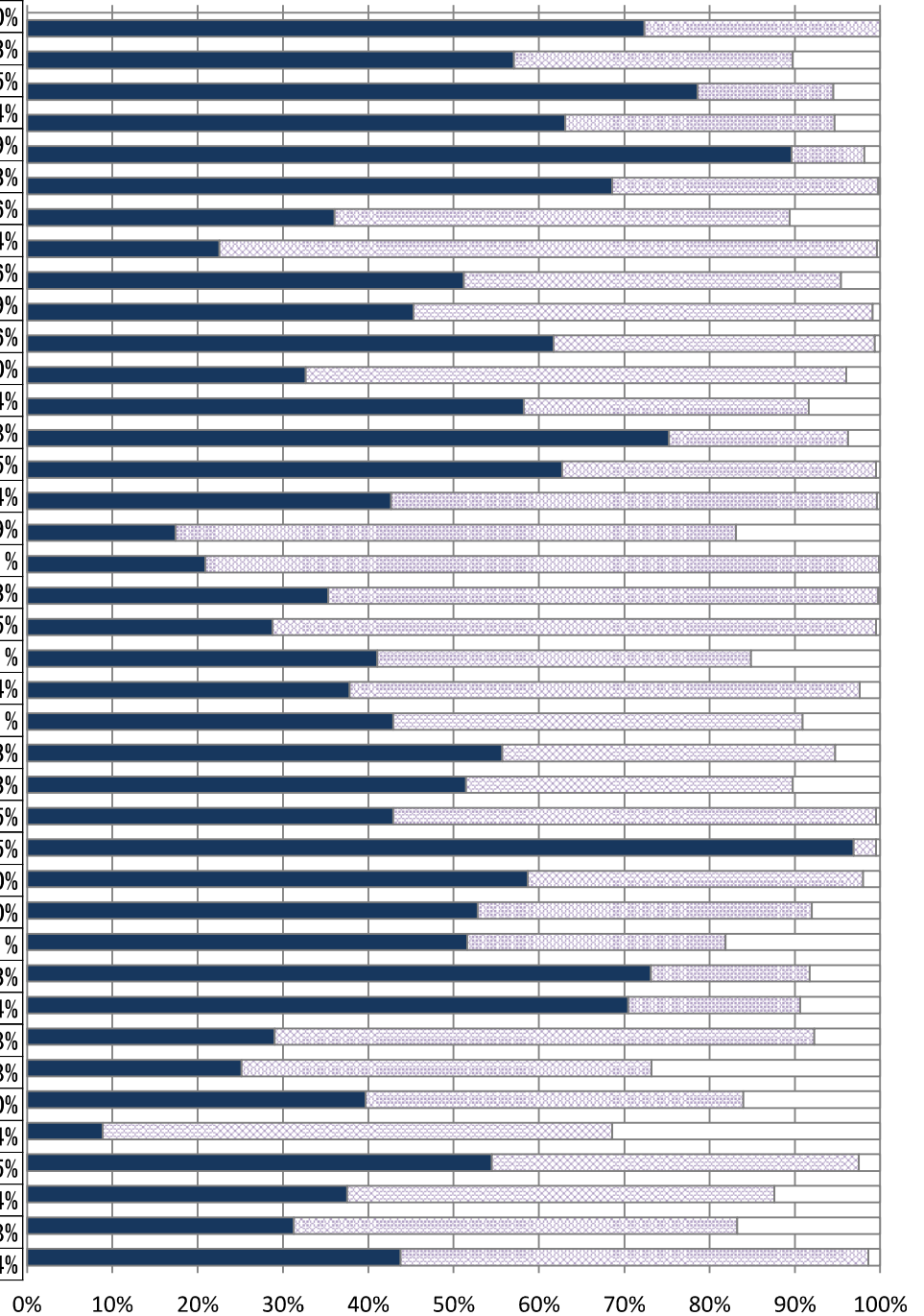
(1) 「思考力・判断力・表現力」を養うためには、日ごろの授業から解答に至るまでの過程を大切にするような学習を心がけたい。そこで、問題解決的な学習や実生活における数学的な課題を授業に取り入れ、筋道を立てて考えたり説明したりする言語活動等、生徒がアウトプットする場を充実させていくことが大切である。

(2) 文章で示されている内容を表や式などに表し、その関連について表現する力を養うためには、文章に含まれる数、図、式等の多様な情報を整理・分類し、そこから読み取ったことや考えたことを相手に伝える活動が有効である。考えを書き表したり伝え合ったりする学習活動を繰り返し設定して、読解力を育んでいきたい。

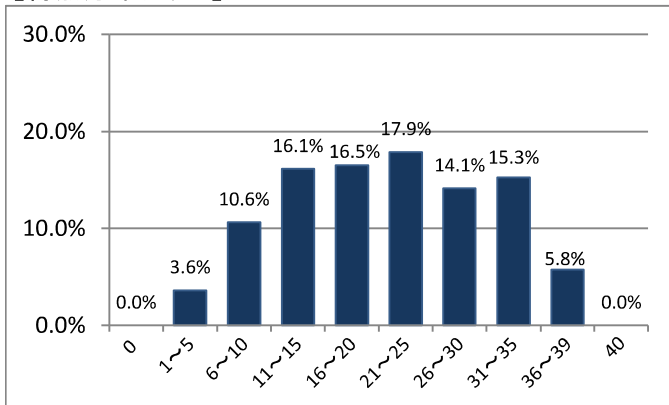
【設問別正答率表・グラフ】

問題番号	観点	配点	正答率	誤答率	無答率
1	2	1	72.3%	27.7%	0.0%
2	1	1	57.1%	32.7%	10.3%
3	1	1	78.6%	15.9%	5.5%
4	2	1	63.1%	31.5%	5.4%
5	1	1	89.6%	8.5%	1.9%
6	2	1	68.6%	31.2%	0.3%
7	1	1	36.0%	53.3%	10.6%
8	1	1	22.5%	77.1%	0.4%
9	2	1	51.2%	44.2%	4.6%
10	2	1	45.3%	53.8%	0.9%
11	2	1	61.7%	37.7%	0.6%
12	2	1	32.7%	63.3%	4.0%
13	1	1	58.2%	33.4%	8.4%
14	1	1	75.2%	21.0%	3.8%
15	1	1	62.7%	36.8%	0.5%
16	1	1	42.7%	56.9%	0.4%
17	2	1	17.4%	65.7%	16.9%
18	1	1	20.9%	79.0%	0.1%
19	1	1	35.3%	64.5%	0.3%
20	2	1	28.8%	70.7%	0.5%
21	1	1	41.1%	43.8%	15.1%
22	2	1	37.8%	59.8%	2.4%
23	1	1	42.9%	47.9%	9.1%
24	1	1	55.7%	39.0%	5.3%
25	1	1	51.4%	38.3%	10.3%
26	2	1	42.9%	56.6%	0.5%
27	1	1	96.9%	2.6%	0.5%
28	1	1	58.7%	39.3%	2.0%
29	2	1	52.8%	39.2%	8.0%
30	2	1	51.6%	30.3%	18.1%
31	1	1	73.1%	18.6%	8.3%
32	1	1	70.5%	20.2%	9.4%
33	2	1	29.0%	63.2%	7.8%
34	1	1	25.2%	48.1%	26.8%
35	2	1	39.7%	44.3%	16.0%
36	2	1	8.9%	59.7%	31.4%
37	2	1	54.4%	43.1%	2.5%
38	2	1	37.5%	50.1%	12.4%
39	2	1	31.3%	51.9%	16.8%
40	2	1	43.8%	54.8%	1.4%

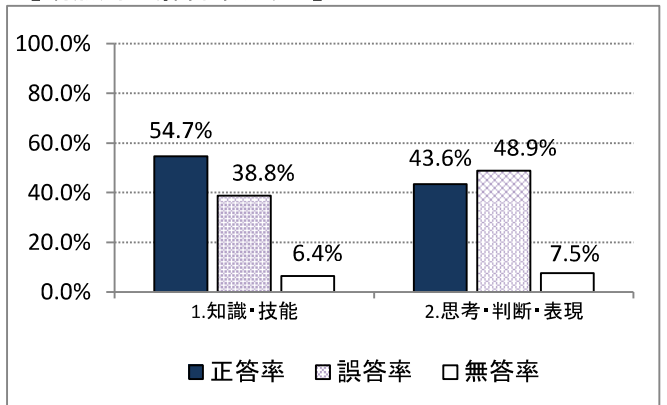
■ 正答率 ■ 誤答率 □ 無答率



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 理科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 19.7 点であり、昨年度の 18.0 点を上回った。観点別で見ると「知識・技能」の正答率が 54.7%、「思考・判断・表現」は 43.6%であった。無答率が 10%以上の問題は 11 問(問題数全体の 27.5%)であり、昨年より多い。

(2) 正答率の高い問題について

「生物の体のつくりと働き」でヒトと魚類の生活場所の違いを基に魚類の呼吸の仕方について問う問題の正答率が 96.9%と最も高かった(通し番号 27)。

また、「身の回りの物質」で二酸化マンガンにオキシドールを加えて発生させた気体の捕集法を問う問題の正答率が 89.6%と高く(通し番号 5)、生活や実験での経験と結びついた知識・技能が身につけているといえる。

(3) 読解力と正答率との関連について

「化学変化と原子・分子」において、4つの物質を2つずつの異なる組み合わせで行った実験結果から各物質の酸素との結びつきやすさを比較するとともに、全実験結果を総合的にとらえ、4つの物質の酸素と結びつきやすい順番を導き出す問題の正答率が 28.8%と低い(通し番号 20)。既存の知識を基に各実験結果を比較・整理し、複数の情報を基に新たな知識を構築する力に課題がある。

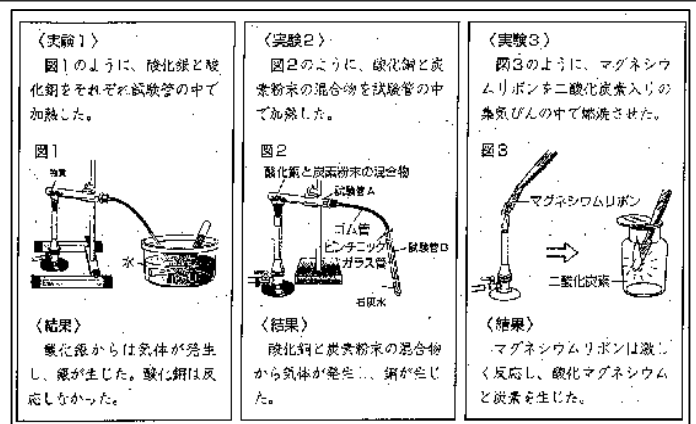
(通し番号 20)

[5]

(4) 実験 1～3 の結果から、次のア～エを酸素と結びつきやすい順に並べ、記号で答えなさい。

- ア 銀
- イ 銅
- ウ マグネシウム
- エ 炭素

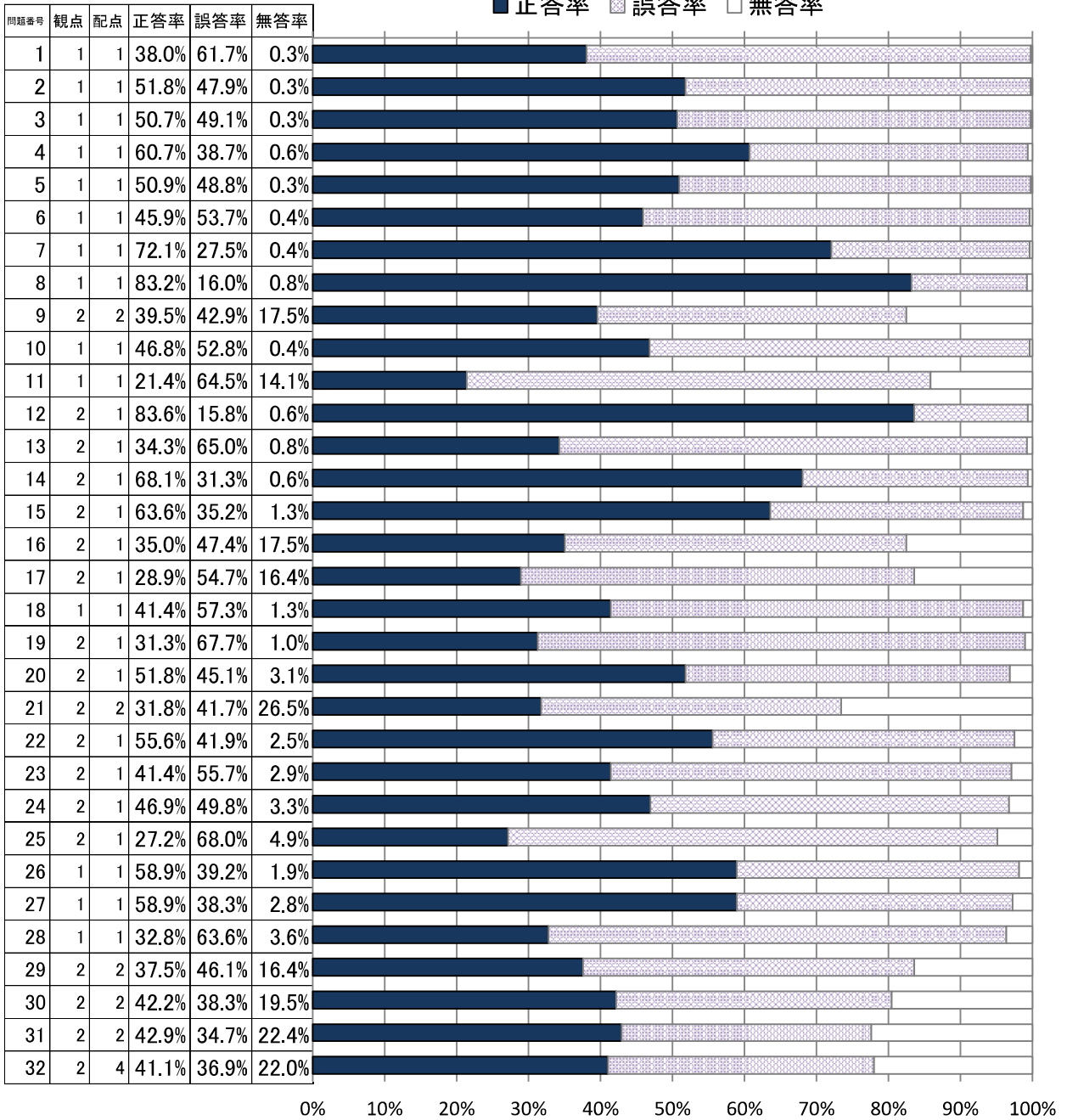
酸素との結びつきやすさ → 銅 > 銀 炭素 > 銅 マグネシウム > 炭素
よって、酸素との結びつきやすさは、マグネシウム > 炭素 > 銅 > 銀となる。



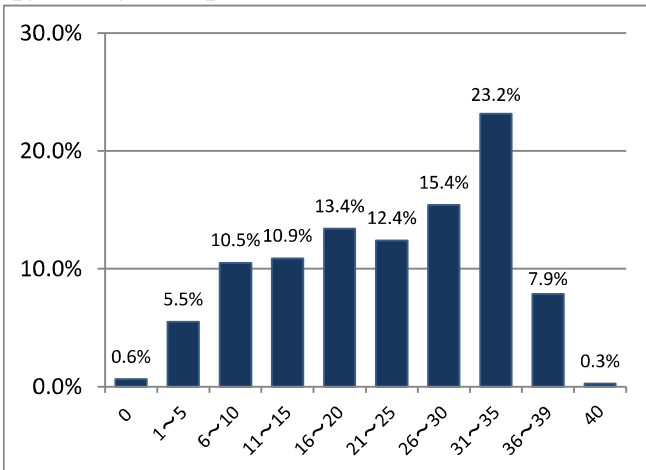
2 今後の授業に向けて

- (1) 問題解決の過程では、生徒が主体的に学習に取り組むことが大切である。課題発見の場面では、既習内容や生活経験を想起できるようにするとともに、自然の事物・現象を比較する場を設けたり、生徒のもつ概念とズレが生じる提示を行ったりすることで、生徒が主体となって疑問を見いだすことにつながる。さらに、仮説を話し合ったり、立場を表明したりすることで問いをより自分のものとするができる。
- (2) 「知識・技能」を高めるには、観察・実験を安全に実施する技能に加え、生徒自身が実験方法の立案にかかわることが大切である。その手立てとしては、客観性や妥当性の視点から実験方法を見直したり、意図的に不備な部分のある実験方法を提示して吟味させたりすることが考えられる。
- (3) 「思考力・判断力・表現力」を高めるには、実験結果を分析・解釈する場面において生徒自身の言葉で表現することが大切である。その際には、一人1台端末を活用し、友達と供覧できるシートに記入するなど、自分と友達の考えを比べながら考えを見直し、自己評価する機会を取り入れることが有効である。

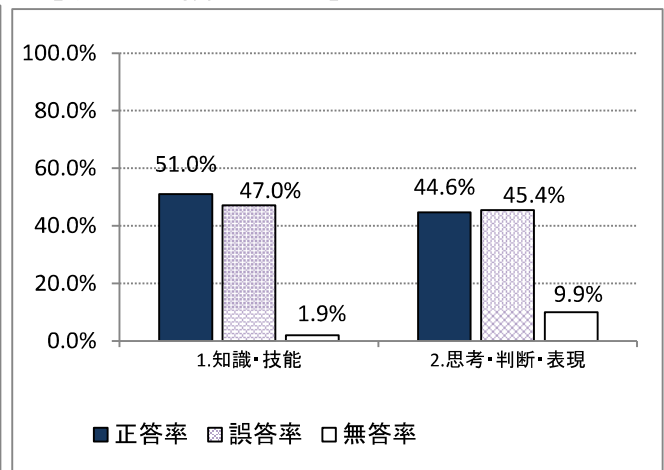
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



1 英語科の考察

(1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は18.2点である。観点別で見ると、「知識・技能」の正答率が51.0%に対し、「思考・判断・表現」の正答率が44.6%と6.4%低い。また、「知識・技能」の無答率は1.9%に対し、「思考・判断・表現」の無答率は9.9%と8%高い。無答率10%以上の問題は9問であり、記述式の問題での無答が目立つ。

(2) 正答率の高い問題について

「知識・技能」(全14問)に関する問題では、対話を聞いて、文脈に合う英文を選ぶ問題の正答率が高い(通し番号4、7、8)。「思考・判断・表現」(全18問)に関する問題では、英文から必要な情報を読み取る問題や、対話文の文脈に合う英文を選ぶ問題の正答率が高い(通し番号12、14、15)。

(3) 読解力と正答率との関連について

自分にとってよりよい学習方法を選択し、その理由を英文で書く問題では、正答率が31.8%とかなり低く、無答率が26.5%とかなり高い。英文を読み取って内容を把握するための語彙力や文構造を理解する力、書かれた内容に対して自分の考えをもち、既習の言語材料の中から適切な表現を選んでまとまりのある文章を書く力が必要であり、総合的に課題があると考えられる(通し番号21)。

(通し番号21)

(3) 3番のレポートを読んだ後で、あなたはALTのデイヴィス先生(Mr. Davis)と話しています。デイヴィス先生の質問に対し、①はどちらかに○をつけて答えなさい。また、②はその理由を5語以上の英語で書きなさい。

Mr. Davis :	Kaori says we can use AI to learn a lot of things. I think learning is very important. Which is better for you to learn a lot, learning alone or learning with friends?
あなた :	I think ① [learning alone / learning with friends] is better.
Mr. Davis :	Why do you think so?
あなた :	Because ② [] .

2 今後の授業に向けて

- (1) 外国語でのコミュニケーションにおいて活用できる「知識及び技能」を身につけるために、具体的に設定した目的や場面、状況に応じた適切な表現を選択する言語活動を取り入れる。その際、ALTの協力を得るなどして、生徒の英語に触れる機会を充実し、授業で実際のコミュニケーションを行う場を十分に確保する。
- (2) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、日常的な学校生活の話題やメディア等で取り上げられている社会的な話題について、自分の考えを示したり、話の内容や書き手の意見等をとらえて賛否を表現したりするなど、領域を統合した活動を意図的に授業の中に位置づける。また、情報を整理しながら自分の思いや考えを話したり、書いたりする言語活動を継続する。
- (3) 「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」を養うために、生徒が関心をもつ内容の言語活動を易しいものから段階的に取り入れ、課題を自分で設定して、自分の思いや考えを話したり書いたりして伝え合う表現活動の機会を十分に確保する。その際、教師のフィードバックや他の生徒からコメントをもらうなど、生徒が自身の学びや変容を自覚できるよう支援することで、自信をもって積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。